

火星を撮像している皆さんへ

文責 ALPO Japan 火星担当 安達 誠

画像処理についてのお願い

最近の技術の進歩は、著しいものがあり、驚かされることが多いです。視直径が4秒台でも、しっかり模様の写った画像が報告されるようになりました。昔と違い、いち早く様々な現象が発見されるようになり、大きな成果を挙げられるようになったのは素晴らしいことです。観測報告を送ってくださっている皆さんのおかげです。

しかし、そういった時代になってきたために困った問題も起こっています。

下記の点に留意の上、画像の処理に当たっていただきたいと思います。

問題

薄い模様を濃くしないでください。

2018年に大ダストストームが起きました。肉眼では、ほぼ何も見えない火星面でしたが、時間の経過とともに、少しダストの厚さが少なくなり、ぼんやり模様が見えるようになりました。肉眼では何が何だかわからない状態でのことでした。

しかし集まってきた画像は、ダストストームが非常に淡くなってきたように見えるものがほとんどでした。画像は模様がきれいにれているものがほとんどなのです。画像は、コントラストを上げれば、模様が出てきます。出てくれば、それを報告したくなるのが人情でしょう。しかし、ここが大きな問題なのです。

薄い時は淡くして処理してください。肉眼よりも濃くしてもらってもいいのですが、あまりに濃いとダストストームが発生しなかったように見え、そういう記録が永遠に残ります。ダストストームの前兆現象として重要なダストベールは消されてしまいます。

肉眼で見えないときは、見えない画像も重要です。スタックしただけの画像を報告の中に入れていただくと、火星面の把握に非常に助かります。

皆さんのご協力を、よろしくお願い申し上げます。 2020, Apr. 29